

# アンケート調査による地域の実態・意向の把握について

## 1 背景と目的

- 鳥獣害対策を考えると、労力・費用と、効果のバランスを考慮する必要があります。
- 「労力」は人によって感じ方が異なり、特に高齢化が進んだ地域では「労力」を大きく感じる傾向があると考えられます。

被害額<労力・費用 → 対策を実施する気にならない

被害額>労力・費用 → 対策を実施する気になる

- また、重点的な対策を必要とする対象獣種の見極めも大切です。
- そこで、アンケート調査による地域の実態及び意向の把握に取り組みました。

## 2 方法

### 【対象地域の概要】

- 瀬戸内島しょ部の柑橘類の産地。高齢化が進み、生産者の平均年齢は約70歳。イノシシ、ヒヨドリの被害が多い。

### 【アンケート調査の内容】

- 対象：柑橘生産者35名
- 質問項目：被害の程度、最も被害が深刻で対策が必要だと思う獣種、被害額（個人の実感）、鳥獣の出没状況、実施している対策



## 3 結果

- 個人の実感としての被害額と、最も被害が深刻だと思う獣種を照らし合わせてみると、被害額が少ない人はイノシシの被害が深刻であると回答し、被害額が多い人はヒヨドリの被害が深刻であると回答しました。
- 防護柵は85%が設置済みで、防鳥ネットや果実の袋掛けの実施は20~30%でした。
- これらのことから、当地域でのイノシシ被害は、防護柵の普及率の高さと被害金額の低さから、改めて対策を実施するほどの被害規模ではないと考えられました。
- 一方、ヒヨドリ被害は、防鳥ネット等の普及率の低さと被害金額の高さから、被害が深刻で対策が必要であると考えられました。

R3被害金額		獣種	
0	イノシシ		
0	イノシシ		
0			
0	イノシシ		ヒヨドリ
0			メジロ
0			
0	イノシシ		
0	イノシシ		
1,000			ヒヨドリ
10,000	イノシシ	カラス	ヒヨドリ
10,000	イノシシ		
10,000	イノシシ	カラス	ヒヨドリ
20,000	イノシシ		
20,000			ヒヨドリ
30,000	イノシシ	カラス	ヒヨドリ
30,000	イノシシ		
30,000	イノシシ		
50,000			ヒヨドリ
50,000			ヒヨドリ
100,000		カラス	ヒヨドリ
300,000			ヒヨドリ
400,000	イノシシ	カラス	ヒヨドリ

## 4 考察

- 地域の被害実態と生産者の意向を把握するためには、アンケート調査で「個人の実感としての被害金額」を聞くのが有効です。被害金額は、その生産者が鳥獣被害にどの程度困っているかを表す指標となり、被害の深刻度合や、対策の必要性に直結します。
- アンケート調査では、「正確な被害金額」は必ずしも必要ではなく、「個人の実感としての被害金額」を聞き取ることがポイントです。

※詳細は「動画で見る有害獣捕獲マニュアル」に掲載しています。

URL : <https://ehime-hunting.com/pages/?p=5274>

